日本キリスト教団 東金教会〔１９〕

2018年5月20日 聖霊降臨節第１主日(ペンテコステ)礼拝

年度目標　《繋がれて生きる》

聖　　句　わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。　ヨハネ福音書１５章５節

【礼拝式次第】

司　　　　式	宮　　　中
奏　　　　楽	中　　　里
受　　　　付	阿　　　部
案　　　　内	藤　　　本
名　札　係	森　　　川
礼拝感謝祈祷	森　　　川
〃　　〃	薬　師　寺

前　　　奏		中　　里
招　　　詞	エゼキエル36:25-27	司　式　者
讃　美　歌	1	一　　同
懺悔の祈り	連祷	司・会衆
慰めの言葉	ローマ8:26～27	司　式　者
主の祈り	５６６	一　　同
新　聖　歌	132	一　　同
聖　　　書	使徒言行録2:1～11	司　式　者
祈　　　祷		宮　　中
み言葉の伝え		朴
「この唇は恵みを語る」		
讃　美　歌	182	一　　同
長老任職式		中　　村
教師任職式		〃　　〃
讃　美　歌	３３３	一　　同
献　　　金		
礼拝感謝		森　　川
〃　　〃		薬　師　寺
報　　　告		宮　　中
頌　　　栄	５４１	一　　同
祝祷(派遣)		朴
後　　　奏	新聖歌５８	聖　歌　隊

【集会案内】

聖書研究祈祷会	５月23日(水)午後7時半～
早天祈祷会	月-金7時(除祭日)メーヤー館
聖書輪読会	５月27日(日)9:50-10:10
礼拝準備祈祷会	５月27日(日)10:25-10:30

【連祷】

司会者　昔、使徒たちが一緒に集まって祈っ ていた聖書の時代と同じように

一　同　聖霊の主よ、来てください。

司会者　私達の冷たい心にも、キリストの愛が熱く燃えるようになるために

一　同　聖霊の主よ、炎のように来てください

司会者　争いや不正によって、荒れ果ててしまった町の空にも、鳥が自由に羽ばたくように、

一　同　聖霊の主よ、鳩のように来てください

司会者　砂漠に嵐が吹き荒れるように、教会を揺り動かして、み言葉が力強く語られる為に

一　同　聖霊の主よ、風のように来てください。アーメン

【報告】

☆本日は朴　　　牧師により、ペンテコステ（聖霊降臨日）礼拝を守りました。主イエスのご復活後、５０日を経て聖霊が下り、主の弟子たちは聖霊の力に生かさました。私達も斯くありたいと切に願うものです。

☆本日午後１時より墓前礼拝を持ちます。皆様御参集下さい。

☆先週お出しした4月分の献金報告中イースター献金は以下のように訂正下さい。

　献金総額‥460,731円を470,731円に

　献金者名追加　池辺美帆　井上健

☆総会資料中　梅田　　姉の受洗教会「東京聖書学院教会」を「新秋津キリスト教会」に訂正下さり、武田　　兄の電話番号080-　　-　　　姉の電話番号090-　　-　　をご記入下さい。

【幼稚園理事・評議員会のお知らせ】

日時…5月22日19:00～　場所…銀杏ルーム

幼稚園理事・評議員の方はご出席下さい。議題は2017年度決算報告他です。

【５月20日～５月26日の誕生者】

○石黒　　兄　　※おめでとうございます。主に繋がる枝々であることを覚え、皆で祈り合わせて参りましょう。

【先週集会状況】

集会名	男	女	計
主日礼拝(5/13)	１６	４３	５９
聖研祈祷会(5/16)	4	5	9
聖書輪読会(5/13)	2	5	7
教会学校(5/13)	１０	１７	２７

早天祈祷会			
日	男	女	計
5/14	1	2	3
5/15	1	2	3
5/16	1	2	3
5/17	1	2	3
5/18	1	3	4

主日礼拝献金(5/13)……３１,０００円

教会学校献金(5/13)……８,４０９円

【今日のメッセージ】

題　［この唇は恵みを語る］

聖　書　使徒言行録2:1～１１

1・約束の聖霊

2・聖霊の働きの示すもの

3・この唇は何を語る

【次週(５月27日)礼拝案内】

題　「主においてよろこびなさい」

聖　　書　フィリピ書3:1～3

交 読 文　18

讃 美 歌　１４番　４９４番

新 聖 歌　３８番

【次週(５月27日)礼拝当番者】

御言葉の伝え…中　村　征　一　郎

司　式　者…岡　　　　村

奏　楽　者…中　　　　村

受　付　者…深　　　　山

案　内　者…中　　　　島

名 札 当 番…藤　　　　田

礼拝感謝祈祷…安　　　　延

〃　〃　…三　　　　枝

ｃｓお話し…藤　　　　本

会堂清掃者…薬　　師　　寺

〃　〃　…

花　　係…小　　　　林

看 板 書 き…藤　　　　田

【聖書から】

さて、わたしはあなたがたの様子を知って力づけられたいので、間もなくテモテをそちらに遣わすことを、主イエスによって希望しています。
彼はわたしと共に福音に仕えました。

フィリピ書二章一九、二二節

彼、パウロはテモテをフィリピ教会の者たちに遣わすことを願っている。パウロの伝道した小アジアからヨーロッパにある各地の教会、其処は様々の試練に満ちた教会の一群であった。なによりそれは異教文化の中にキリストの福音を掲げて奮闘しなければならない状況にあったし、加えて同族ユダヤ人の反発があり、また、教会内部にあっては信仰理解の相違から引き起こされる大小様々の問題もあったのである。ため息をつきたくなるようなパウロの姿を想像するのである。

そのような心身共に押し迫られるような思いの中でパウロがホッと気の休まる時があったことも私たちは思わせられる。何よりも第一に神から来る慰めを彼は経験したであろう。神の与えられる慰めは究極の慰めである。人知のおよばぬところさえ神の慰めは及ぶことを私たちは信じる群なのである。　二に教会からの慰めがある。パウロは教会を建て上げることを使命としていた。神からのご命令はまさにこれであった。だから自分の労した教会が神のみ心に叶う教会として生き、この世に立つ姿を見ることができたとき、それはパウロにとって大きな慰めとなった。　ピリピの教会は彼に大きな力を与えたのである。　三に同労の仲間からの慰めがある。共に福音に仕えるその喜びである。そしてそこでの鍵は信仰理解を同じくするということである。たとえどのように有能であろうと、信仰理解において齟齬があるとするならばその交わりは喜びをもたらさない。我と彼に共通する理解がなければならない。聖霊なる神から「貴方達は等しく神の働き人だ」、と証印を捺される必要がある。そしてその証印は「神のために働く」という証印である。自分を世に売り出すのでなく神を語る者になりたいものである。

【礼拝心得】

①礼拝は前奏から後奏までを守る。

②入堂したら私語を交さず、前奏までの時を黙想する。

③遅れてきた者は静かに入堂し、特に祈祷の時は入堂を控え、その場で共に祈りを守る。

④礼拝後は互いに挨拶を交し、交わりの時を持つ。

⑤各自週報棚を整理し、欠席者に週報を届ける。